

平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭協賛公演
新国立劇場 2018/2019 シーズンオペラ
ジョルジュ・ビゼー

カルメン

Carmen

2018 年 11 月 23 日(金・祝)~12 月 4 日(火)

会場:新国立劇場オペラパレス 2018 年 7 月 15 日(日)発売



新国立劇場『カルメン』2017 年公演より 撮影:寺司正彦

スペインを舞台に燃え上がる！ 魔性の女カルメンとドン・ホセの宿命の愛

世界中で人気オペラの筆頭に上がるビゼーの『カルメン』。「ハバネラ」「闘牛士の歌」など誰もおなじみの名曲にのせて、自由奔放な女カルメンと一途な男ドン・ホセによる愛と死のドラマが繰り広げられます。

日本を代表する演出家のひとりである鶴山仁による演出は、スペインの香り漂う正統派のプロダクション。大迫力の合唱やエキゾチックなフラメンコシーンの見せ場もあり、オペラの醍醐味を存分に味わっていただける大人気の舞台です。

＜資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ＞

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

スペインを舞台に燃え上がる！ 魔性の女カルメンとドン・ホセの宿命の愛

世界中で人気オペラの筆頭に上がるビゼーの代表作『カルメン』。活気あふれる前奏曲、カルメンの登場で歌われる「ハバネラ」、ホセを誘惑する「セギディーリャ」、フラメンコを踊りながら歌われるスペクタクルな「ジプシーの歌」、華やかな「闘牛士の歌」など誰もおなじみの名曲にのせ、自由奔放な女カルメンと一途な男ドン・ホセによる愛と死のドラマが繰り広げられます。

鶴山仁演出は『カルメン』にふんだんに盛り込まれたスペイン風俗を生かし、フラメンコシーンや群衆の合唱による大迫力の見せ場が連続、燃え上がる愛と裏切り、ついに死に至るクライマックスまで息もつかせぬ展開で大人気のプロダクションです。オペラの魅力が存分に引き出され、『カルメン』ならではの情熱的なエネルギーが観客を虜にします。オペラを初めて見てみたい、という方にも迷いなくお薦めできる作品です。



「新世代のカルメン歌い」コスタ=ジャクソン登場！



注目のタイトルロールは、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座などで活躍する注目の大型メゾ、ジンジャー・コスタ=ジャクソン。卓越した歌唱力と情熱的な美貌で「新世代のカルメン歌い」と世界中から熱い視線を浴びるコスタ=ジャクソンの新国立劇場デビューとなります。

ドン・ホセにはボリショイ劇場のスター、オレグ・ドルゴフ。ロシア独特の強靭さとリリカルな魅力を併せ持つホセに期待が高まります。エスカミーリヨにはアメリカの新鋭ティモシー・レナー。そして日本の名花、砂川涼子を当たり役ミカエラに迎えます。砂川のミカエラは可憐さと芯の強さを併せ持つ女性を表現し、登場するたび観客の共感を呼ぶと話題の役です。指揮を務めるのはフランス音楽のスペシャリスト、ジャン=リュック・タンゴーです。

<「カルメン」あらすじ>

【第1幕】セビリアのタバコ工場前の広場には女工目当てに男たちが集まっている。彼らの一番人気はカルメン。ロマならではの奔放さで男を魅了するが、衛兵の伍長ドン・ホセは彼女に関心がない。そんなホセをからかってカルメンは花を投げつける。呆然とするホセのもとに、母の手紙を持って故郷ナバラから許婚のミカエラが来る。懐かしさに浸っていると、工場内で喧嘩が勃発。騒ぎの張本人カルメンは連行されるが、脱走しようとホセを誘惑。「リリヤス・パステアの酒場で待っている」との言葉に負けたホセは縄を解き、結果、脱走補助の罪で捕まってしまう。



【第2幕】リリヤス・パステアの酒場に人気闘牛士エスカミーリヨが来てカルメンを口説くが、彼女は相手にしない。釈放されたホセをカルメンが踊りでもてなしていると、帰郷の時刻に。カルメンを愛しても帰ろうとする真面目なホセだが、鉢合わせした上官スニガに刃向かってしまう。スニガはカルメンの密輸団仲間ダンカイロらに捕らえられ、ホセは密輸団に加わる決意をする。



【第3幕】人気のない岩山にいる密輸団。カルメンはすでにほかの男に心移りしているようで、ホセにつれない態度を取る。女たちはカルタ占いに興じるが、カルメンが占うと、自分もホセも死ぬという結果に、愕然とする。そんなとき、ホセの母が危篤だとミカエラが知らせにやってくる。ホセは、ミカエラとともに故郷に帰る。

エスカミーリヨの恋人になったカルメンは、試合を見に闘牛場へ。ホセも故郷から戻り、彼女を探していた。闘牛場の外で対峙する2人。やり直そうと迫るホセに、カルメンは、自由に生まれて自由に死ぬと言い放ち、ホセからもらった指輪を投げつける。思い余ったホセはカルメンを刺す。ホセは、倒れたカルメンの上に泣き崩れる。



<主要キャスト・スタッフプロフィール>**【指揮】ジャン＝リュック・タンゴ****Conductor: Jean-Luc TINGAUD**

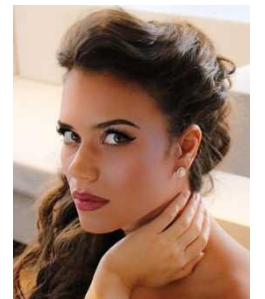
フランス生まれ。パリ国立音楽院にて学んだ後、マニユエル・ロザンタルのアシスタントとしてフランス音楽の造詣を深める。1997年に若い音楽家からなる室内管弦楽団 OstinatO を創設し、オペラ・コミック、シャンゼリゼ劇場ほかフランス各地の劇場や音楽祭に招かれている。オペラでも精力的に活動し、02-07年にはオペラ・コミックの指揮補を務めた。フランス・オペラを特に得意とし、フォーレ『ペネロペ』、マスネ『サッフオー』、オーベール『マノン・レスコー』、シャブリエ『いやいやながらの王様』、オッフエンバック『チュリパタン島』など、珍しい作品のほか、『ペレアスとメリザンド』『ファウストの劫罰』『人間の声』『ウェルテル』『カルメル会修道女の対話』といったフランス・オペラ、さらには『愛の妙薬』『ゴジ・ファン・トゥッテ』『蝶々夫人』などをレパートリーとしている。ウェックスフォード・オペラ・フェスティバルに定期的に出演しているほか、フランス各地の歌劇場で活躍、近年はヴェローナ野外音楽祭、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、マドリッド王立劇場など、国際的に活躍の場を広げている。17/18シーズンはモデナ歌劇場ほかで『ファウスト』、グランジュ音楽祭『後宮からの逃走』などを指揮。CD録音も数多い。新国立劇場初登場。

**【演出】鷗山 仁****Production: UYAMA Hitoshi**

慶応義塾大学フランス文学科卒業。舞台芸術学院を経て文学座附属研究所に入所、劇団員に。初演出は1982年文学座アトリエ公演『プラハ1975』。以降、精力的な演出活動を続けている。83年から1年半、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在。2007年9月より10年8月まで新国立劇場演劇芸術監督。89年、芸術選奨文部大臣新人賞、1999年『おばかさんの夕食会』『夢の島イニシュマーン』の演出で、第2回毎日芸術賞千田是也賞、2001年新国立劇場『コペンハーゲン』で紀伊國屋演劇賞個人賞と読売演劇大賞優秀演出家賞、03年『ニュルンベルグ裁判』(ひょうご舞台芸術)などにより読売演劇大賞の大賞・最優秀演出家賞、07年『ゆれる車の音』(文学座)などにより読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞、09年『ヘンリー六世』で芸術選奨文部科学大臣賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞などを受賞。そのほかの主な演出作品に、『グリークス』(第25回紀伊國屋演劇賞団体賞)、『缶詰』(第55回文化庁芸術祭最優秀賞)、『ザ・ウィアー(堰)』(以上文学座)、『雪やこんこん』『父と暮せば』(以上こまつ座)など、またオペラでも数々の話題作を手がけている。新国立劇場では、上記受賞作品『コペンハーゲン』『ヘンリー六世』のほか、『リア王』『新・雨月物語』『新・地獄変』『花咲く港』『カエル』『アルゴス坂の白い家』『オットーと呼ばれる日本人』『舞台は夢』『現代能楽集 鶴』『イロアセル』『リチャード三世』『桜の園』『ヘンリー四世』『ヘンリー五世』、オペラ『カルメン』『鹿鳴館』を演出している。

**【カルメン】ジンジャー・コスタ＝ジャクソン****Carmen: Ginger COSTA-JACKSON**

イタリア生まれ。メトロポリタン歌劇場リンデマン・ヤングアーティスト・プログラムを修了し、同歌劇場で『セビリアの理髪師』ロジーナを演じたほか、『マノン』ロゼット、『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラ、『ルル』ギムナジウムMの学生などで出演している。ヨーロッパではバルセロナ・リセウ大劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラでデビュー、さらにパリ・オペラ座にはフィリップ・ジョルダン指揮『ゴジ・ファン・トゥッテ』の新制作のデスピーナ役でデビューし、今後も出演が続く予定である。このほか17/18シーズンはロサンゼルス・オペラ『リゴレット』マッダレーナ、シアトル・オペラ『ゴジ・ファン・トゥッテ』ドラベツラなどに出演した。『カルメン』のタイトルロールは特に得意とし、サンフランシスコ・オペラでのデビューを飾ったほか、グリマースグラス・フェスティバル、メキシコシティ、ミシガン・オペラ、ナッシュヴィル・オペラ、バンクーバー・オペラなど多くの劇場で演じている。今後の予定に、サンディエゴ・オペラ及びシアトル・オペラで『カルメン』、トゥーロン歌劇場『セビリアの理髪師』などがある。新国立劇場初登場。

**【ドン・ホセ】オレグ・ドルゴフ****Don José : Oleg DOLGOV**

ロシア生まれ。チャイコフスキー記念モスクワ音楽院とモスクワ・ガリーナ・ヴィシネフスカヤ・オペラセンターにて学ぶ。ノーヴァヤ・オペラ劇場のソリストとして活躍した後、2014/15シーズンよりモスクワ・ボリショイ劇場のアンサンブル・メンバーとなり、『スペードの女王』ゲルマン、『ドン・カルロ』タイトルロール、『椿姫』アルフレード、『カルメン』ドン・ホセ、『イオランタ』ヴォーデモン、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』セルゲイ、『仮面舞踏会』リッカルドなどを演じている。このほか、スポレート・フェスティバル、ミラノ・スカラ座、リエージュ・ワロニー王立歌劇場など、ヨーロッパ各地の劇場・音楽祭に登場している。最近の出演にはバイエルン放送響でのマリス・ヤンソンス指揮『鐘』(ラフマニノフ)、アムステルダム・コンセルトヘボウでのウラディーミル・ユロフスキ指揮『セミョン・コトコ』(プロコフィエフ)タイトルロール、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバル及びプラハ国立歌劇場での『イオランタ』ヴォーデモンなどがある。今後の予定にボリショイ劇場『ボリス・ゴドノフ』グリゴリー、『仮面舞踏会』リッカルドなどがある。新国立劇場初登場。



【Escamillo】ティモシー・レナー**Escamillo : Timothy RENNER**

アメリカ生まれ。ボブ・ジョーンズ大学で音楽教育と教会音楽を学んだ後、イリノイ大学で声楽の博士を取得、現在フィラデルフィア・アカデミー・オブ・ヴォーカル・アーツでレジデント・アーティストとして学んでいる。ストットラー・ハワード・フェローシップ、マリオ・ランツァ研究所奨学金、ジョーセフ・W・シュランガー記念オペラ奨学金授与のほか、オルフェウス全国声楽コンクール、S・リヴィングストン・マザー奨学金コンクールなど受賞歴も多い。オペラ・コロンバス『椿姫』ジェルモン、ヴェロ・ビーチ・オペラ『こうもり』アイゼンシュタイン、フィラデルフィア・アカデミー・オブ・ヴォーカル・アーツでのアントン・ルービンシュタイン『悪魔』タイトルロール、ニューヨーク・リーダー・クラウンズ『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵など活躍を始めている。またカーネギーホール、イースタン交響楽団などコンサートにも出演し、ラヴィニア・フェスティバルではリートコンサートにも出演している。新国立劇場初登場。

**【Micaëla】砂川涼子****Micaëla : SUNAKAWA Ryoko**

武蔵野音楽大学首席卒業。同大学大学院修了。第69回日本音楽コンクール第1位ならびに海外派遣特別賞受賞。第16回リッカルド・ザンドナイ国際声楽コンクールでザンドナイ賞など受賞多数。2001～2004年江副育英会オペラ奨学生として渡伊。五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞し、05年より再度留学。2000年新国立劇場小劇場オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』エウリディーチェで本格的なオペラ・デビュー。以後藤原歌劇団『イル・カンピエッロ』ガスパリーナ、『ランスへの旅』コリンナ、『ラ・ボエーム』ミミ、『ドン・パスクワレ』ノリーナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、日生劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』ジュリエッタ、びわ湖ホール『死の都』マリエッタ、『椿姫』ヴィオレッタ、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』アントニアなど出演を重ね、日本を代表するソプラノの一人として活躍中。新国立劇場では『トウランドット』リユー、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『カルメン』ミカエラ、『魔笛』パミーナ、『夜叉ヶ池』百合、『ウェルテル』ソフィーなど出演。2017/18シーズンは『ホフマン物語』アントニア、2018/19シーズンはほかに『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、『トウランドット』リユーに出演予定。武蔵野音楽大学非常勤講師。藤原歌劇団団員。



平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演
 新国立劇場 2018/2019 シーズン
 ジョルジュ・ビゼー
カルメン
 Georges BIZET / Carmen
 全3幕〈フランス語上演/字幕付〉

【公演日程】2018年11月23日(金・祝)14:00/25日(日)14:00/27日(火)14:00/30日(金)貸切/
 12月2日(日)14:00/4日(火)18:30

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:23,760円・A:19,440円・B:12,960円・C:7,560円・D:4,320円・Z:1,620円

【前売開始】2018年7月15日(日)

指揮	ジャン＝リュック・タンゴー	カルメン	ジンジャー・コスタ＝ジャクソン
Conductor	Jean-Luc TINGAUD	Carmen	Ginger COSTA-JACKSON
演出	鶴山 仁	ドン・ホセ	オレグ・ドルゴフ
Production	UYAMA Hitoshi	Don José	Oleg DOLGOV
美術	島 次郎	エスカミーリョ	ティモシー・レナー
Set Design	SHIMA Jiro	Escamillo	Timothy RENNER
衣裳	緒方規矩子	ミカエラ	砂川涼子
Costume Design	OGATA Kikuko	Micaëla	SUNAKAWA Ryoko
照明	沢田祐二	スニガ	伊藤貴之
Lighting Design	SAWADA Yuji	Zuniga	ITO Takayuki
振付	石井 潤	モラレス	吉川健一
Choreographer	ISHII Jun	Moralès	YOSHIKAWA Kenichi
再演演出	澤田康子	ダンカイロ	成田 眞
Revival Director	SAWADA Yasuko	Le Dancaïre	NARITA Makoto
舞台監督	斉藤美穂	レメンダード	今尾 滋
Satage Maneger	SAITO Miho	Le Remendado	IMAO Shigeru
		フラスキータ	日比野 幸
		Frasquita	HIBINO Miyuki
		メルセデス	中島郁子
		Mercédès	NAKAJIMA Ikuko

合唱指揮	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
児童合唱	TOKYO FM 少年合唱団
Children Chorus	TOKYO FM Boys Choir
ダンサー	新国立劇場バレエ団
Dancers	The National Ballet of Japan
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督

大野和士	
Artistic Director	ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 2席 1,620円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

★宣材のご提供について…本演目はレパートリー(再演)公演です。過去の上演の記録写真を宣材としてご提供いたします。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



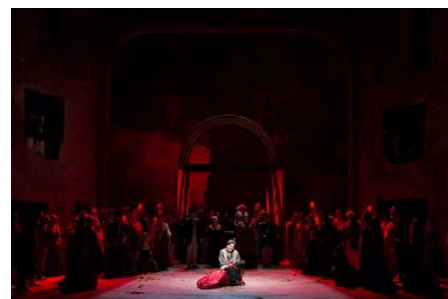
【9】



【10】



【11】



【12】

撮影: 寺司正彦